

わたしとお米

大崎市立長岡小学校4年 千葉 愛莉

「お母さあん、お米をとぐの手伝っていい？」わたしは、さいきんお米をとぐお手伝いが好きです。なぜお米をとぐのが好きかというと、お米をとぐ音が好きだからです。

「シャカシャカ、ザーザー、ギュッギュッ。」とお米が音をならします。何とも言えない音、気持ちいい音、やさしい音がします。わたしのお米をとぐお手伝いは、まだまだお母さんにはかないません。お米をおいしいごはんにするためには、強くお米をとくと表面がけずられ、お米がわれたり、たき上がるとベタベタになると、教えてくれました。お米を一合ずつはかることが、おいしいごはんをたくことにつながるみたいです。水の量がちがってくるとたき上がりがちがったり、お米に水を加えたらゆっくりとしては、いけないそうです。お米は、水をすって生きているみたいです。今のわたしがお米をとぐときは、「おいしくなあれ。おいしくなあれ」。とお米に声をかけながら、とぐようにしました。まだまだお母さんのようにできないけれど、少しずつお米がとげるようにがんばりたいです。

わたしは、お姉ちゃんとケンカしたとき、イライラしたり、くやしくてなみだが出てきます。でもごはんを食べると、さっきまでのイライラやくやしくて泣きそうになっている自分が、うそのように食べ終わると気持ちが楽になってくやしい気持ちがなくなりました。ふしぎなお米、元気が出るお米、えがおになるお米だと分かりました。そんなふしぎなお米があることを知って、お米の力ってすごいなと思いました。そんなお米の力を、みんなにも知ってもらえれば、いやなこともなくなり、みんながえがおになればいいなと思いました。

お米をとげるようになれば、「生きる力」をお母さんは、プレゼントすることができるって言ってくれました。お母さんが、具合が悪いとき

やどうしても動けないときは、「ごはんをたいておくね。」と言えるようにそれまで、上手にお米をとげるようにしたいです。わたしがといたお米を、家族みんながおいしいねと言ってくれるようにしたいし、わらってすごせるように今日もお米ときのお手伝いを、がんばります。